

永福稲荷神社 東京都杉並区永福 1-24-6

享禄3年(1530年)に永福寺の開山秀天和尚が、永福寺境内の鎮守として創建しました。ご祭神は京都伏見稲荷から宇迦之御魂大神(うかのみたまのおおかみ)を勧請創建し、寛永16年(1639年)の検地の際に永福寺村持ちの鎮守になったといわれます。明治維新後、神仏分離のため永福寺から分離して一社を成し今日にいたっています。明治11年(1878年)に同村全体を護るよう社殿が西向きに建て直されたといひ、昭和45年(1970年)にも建て替えられたものの社殿は西面したままである。境内末社として、天王社・白山神社(以上合殿)、白鳥神社(一殿)、及び明治40年10月(1907年)に同村字水久保にあった北野神社(祭神・菅原道真公)が合祀されています。(杉並区教員委員会説明版)



(教育委員会の説明版)



道路に面して石柱



神仏集合の両部鳥居



石の扁額(稲荷神社)



神狐は子狐付き



稲荷社らしく朱が映えた権現造り



鈴緒は上に



白鳥神社(日本武尊)・天王社(須佐男命)・白山神社(伊邪那岐命)